

クロージングコメント

OECD 雇用労働社会局 スキル・就業能力課長

Mark Keese

今日の「これからの能力開発・キャリア形成を考える」というテーマは、OECDの「よりよい生活のためのよりよい政策」というスローガンに沿ったものです。対応力のある成人学習の機会を充実させる政策は、経済・社会的不均等の是正や、自己実現・ウェルビーイングの向上にとって重要なことだと思います。今日のフォーラムは、様々な成人学習の取り組みといったものが日本企業でどのように行われるのか学ぶ貴重な機会になりました。

OECDが日本についてのレビューを行い、今回、充実したディスカッションが持てたということで、3点述べさせていただきます。

まず、スキルのニーズは変わってきています。デジタル化・自動化だけではなく、コロナ禍も影響しています。重要なのは、非常に有効な方法として成人学習を促進し、アップスキル、リスキルをする機会とはどういふものがあるのかを模索し続けることです。日本

政府、OECD、その他全ての関係者が協力して、好事例を普及していくことが重要です。

二つ目に、日本は、誰一人取り残されないよう、包括的な支援を行う必要があると思います。もちろん個人が責任を持ってキャリアを進め発展させていくことは重要ですが、日本の成人学習の機会に格差があることも、そのとおりです。コロナ禍でそういった不均衡が広がっている状況を鑑みると、キャリアガイダンスや訓練へのアクセスを均等に提供していくことが重要になってきます。全ての成人が、どのようなトレーニングが必要なのかといった情報にアクセスし、その機会を得られるようにしなくてはなりません。

最後に、生涯学習システムは、政府だけで実施できるものではなく、トレーニング提供者や雇用主、労働者、労使団体などといった全てのステークホルダーの関与が必要です。変化する仕事の世界に対応し、将来に備えた成人学習システムを構築するためには、充実した協力関係も必要です。

デジタル時代の成人学習の機会をさらに改善していくために、日本とOECDの協力をさらに強化していきたいと思っています。

厚生労働省 大臣官房審議官（人材開発、雇用環境・均等担当）

富田 望

本日は行政として取り組むべき重要なテーマを設定していただきました。このテーマを検討するうえでは、わが国として中長期的に対応すべき構造的課題と現在直面している課題の双方を見据えることが大変重要ではないかと思っています。

構造的な課題としては、世界でもトップクラスの少子高齢化が進み、若い人たちを含む人手不足の状況もあります。人生100年時代と言われるように職業生活期間が非常に長くなってきたこと。また、DXのように企業活動をめぐる環境も大きく変化してきていることがあります。

現在直面している課題としては、新型コロナウイルス感染症の流行による課題の対応があります。わが国においては、雇用調整助成金をはじめとする政策によって、2020年12月の完全失業率は2.9%と、リーマン・ショックに比較すると低い数字にとどまっています。一方、飲食店小売などには痛手が集中しており、これらの方々の生活を守りつつ、ステップアップを図っていくことが喫緊の課題です。厚生労働省では、コロナ

禍において休業やシフト減を余儀なくされている主に非正規雇用労働者を念頭に置いて、働きながら職業訓練を受講しステップアップにつながるよう、去る2月12日に生活支援の給付金を拡充したほか、今日のテーマにも上がりましたオンラインをもっと使えるようにしていくことや、訓練を短時間化あるいは受けやすくしていくことによって、より受講しやすい訓練コースの設定を可能にするような政策も新たに打ち出したところです。

こういった状況でも、介護分野などをはじめ人手不足の状況が続いている一方で、コロナ禍によって、DXなどの構造変化がますます加速している状況があり、こうした環境を踏まえた対策が求められると考えています。

人生100年時代において、さらにコロナ禍において、技術革新や労働市場の変化が非常に速くなっているなか、わが国が持続的な発展をしていくには、今日のテーマについて国民的な議論をしていくことが不可欠だと思っています。今後とも皆さんと一緒に議論を深めていきたいと考えています。

(※講師のプロフィールはJILPTのHPに掲載)